

行政視察報告書

報告者(会派等) 高山市議会公明党 中箴 博之

1. 視 察 期 間	令和6年8月5日～8月6日	
2. 視 察 先	特定非営利活動法人 多摩住民自治研究所	
3. 視 察 項 目	「公共施設の複合化・多機能化を考える」講座	
4. 視察の目的	高山市における今後の公共施設の複合化・多機能化について参考とするため	
5. 視 察 内 容 ※視察内容は、視察項目によって各自の判断で記載	ア. 概 要	1, 自治体民営化の動向 尾林芳匡氏 PFIや指定管理者制度など自治体民営化制度の運用と課題についての講義 2, 公共施設再編と自治体財政 森裕之氏 公共施設をめぐる状況と整備運営にかかる財政上の課題について事例をあげての講義 3, 市町村の高齢化施策 石川満氏 認知症や孤独死・貧困化など高齢者を取り巻く問題と社会保障制度のあり方についての講義 4, 実践報告「公共施設再編の最前線から」 真鶴町長 小林伸行氏 横須賀市議を経て町長となった氏の町政改革の取り組み報告 法政大学教授 荒井容子氏 多摩市の社会教育を考える会で議論された公共施設の再編の報告
	イ. 効 果	公共施設に関する施策は自治体ごとに状況が異なり、何を優先するかは財政状況とのバランスと住民との対話の中で全体最適を探るしかない
	ウ. 課 題	自治体運営を委ねられている議会と行政は、住民サービス向上と財政の持続可能性の両方を意識しながら住民合意を図りつつ議論を深める必要がある

6. 考 察

① 尾林氏は、公共施設に関するPFIや指定管理者制度だけでなく民間活力の活用そのものを全否定される内容の講義で、国内外の失敗例をあげて、民に任せず行政が責任をもって取り組むべきと主張された。

公共施設に関する施策は自治体ごとに状況が異なるわけで、必ずしも民間に任せることが悪いわけではなく、経費節減という観点ではなく住民サービス向上を最優先に考えて取り組み、行政がキッチンとチェックしコントロールすれば決して悪い面だけではない効果が生み出せると考える。

民営化を急ぐことに課題が無いわけではないが、営利目的の民間企業は協定書を交わしたとしても必ず不正を行うものと決めつけての講義には違和感を禁じえず、行き過ぎた民営化には歯止めも必要だが、単純に直営に戻すのが最適なのか、国県に従属するだけではない自治体の矜持が求められるのだと感じた。

丸投げ・非正規雇用という問題は、民営化の問題とは別で扱うべきで、公務員の損益分岐点などのコスト感覚やスピード感、独創性に欠ける点などをどうカバーしていくか役所の風土や職員の意識改革という視点で考えるべき課題だと考える。

② 森氏は、行政運営を財政という視点で見るか、人口という視点で見るか、自治体ごとに条件が異なり、判断も違っているという事例を引きながらの講義を興味深く聞いた。

人口減少に伴い税収も減少し、住民1人あたりのコストが増える中、毎年の維持管理コストがかかる無差別平等のハコとしての公共施設を保有し続けるか否かという判断も迫られるが、住民との対話を重ねながら、自治体として限られた財源を勘案して優先順位をつけて進めていくしかない

何を最優先にするのか、議会として責任ある全体最適を探るしかないものと考ええる。

③ 公共施設の議論を離れて、貧困問題など高齢者の生活実態をふまえ、個人としての尊厳を守る福祉の視点から、市町村の責務についての講義。

今後さらに増えるであろう認知症高齢者の問題と高齢者虐待、住まいの補償など市町村と議会の役割が極めて重要であることをあらためて確認させられる講義だった。

④ 実践報告 2 題

真鶴町は前町長がリコールで退任し、財源も人材も不足する中、雑然とした庁舎内の片付けや遊休施設のリニューアルや処分をサウンディングから取り組んでいる新しい町長の率直な話には好感がもてた。

一方の荒井容子氏は、多摩市での「社会教育を考える会」の取り組みを話されたが、ハコが無ければ社会教育ができないかのような主張には違和感。

法政大学教授という肩書も持たれるのであれば、自分の思いだけではなく、もう少し理路整然とした話をしてもらいたかった。

お二人のクロストークは、自治体によって保有する社会資源が異なる中では、観光など稼ぐ分野は民間の力、福祉・教育・文化は行政の責任として、すみ分ける必要もあるとしながらも、何を優先するかという価値観が違うため議論が噛み合わず少し残念な思いがした。

白か黒かという問題ではなく、公と民のバランス配分の問題で、住民とも議論し納得感を得ながら方向性を見出していくべき問題で、行政を預かる者の現場感のある話と社会運動家の理想論はなかなか交わらず聞きづらかった。